

# 平成27年度 行政視察報告

## 青雲

### ◎参加者

洞口雅章、小久保重孝

### ◎期間

平成28年2月4日(木)  
～6日(土)

### ◎調査場所・目的

#### ○神奈川県海老名市

#### ★図書館の指定管理について

通称「ツタヤ図書館」と呼ばれる海老名市立中央図書館を視察した。同図書館は平成27年10月に、

約10億円の改装費と新たな指定管理によって再スタートをした。利用者はこれまで2倍以上となり、市民満足度も極めて高い。売物と貸出図書の間隔がないのが特徴で、600種類ある雑誌は全て売物ということだったが、その全てを図書館内では自由に閲覧できる。そのため売上げは伸びないが、以前は足を運ぶことがなかった市民が多く訪れるようになった。

貸出、返却も簡単で、回転寿司屋の会計システムと同様、本に付けられたICタグを読み取るだけなので、瞬時に内容がデータベースと照合され記録さ

れていく。  
指定管理会社の方は「本の売れ行きは雑誌も含め低調だが地方においては大店舗本屋でも売れ行きが伸び悩んでいる。こうした取り組みで、集客を図り、新ビジネスを確立していきたい」と意欲的だった。



図書貸出セルフカウンター ここに図書をかざすだけで貸出処理ができる。

※その他の視察先

#### ○東京・千代田区立千代田図書館

#### ○東京・地方議員研修会（講師 樋渡啓祐氏）への参加



## 新政クラブ

### ◎参加者

寺島 徹、吉村俊幸  
辻浦義浩、犬塚貴敬  
田中秀幸、佐藤匡則

### ◎期間

平成28年2月15日(月)  
～16日(火)

### ◎調査場所・目的

#### ○北海道三笠市

#### ★三笠市コミュニティスクール

コミュニティスクール開始のタイミングで学校の大幅な統合があり、導入には市民の目線からも協力的でスムーズであった。

ボランティア数は現在128人の登録があり、高校生のボランティアも少なからずいるとのこと。幅広い年代の協力をいただいている。

学校側の専従は置いていないが、教頭が窓口となり調整や受け入れを担当

しているとのこと。  
この制度導入にあたって学校側の負担は増加したと思われるが、まちが一体となって学校を盛り上げるという意識が根付いている。

統合で学校の範囲が広くなり、人のつながりが希薄化しかけたところでのコミュニティスクール導入だった。

ボランティアが学校を支えるという意識の統一が図られている。

人事や予算など、コミュニティスクール側からの批判的な意見よりも、例えば、野球の指導者がほしい、などといった前向きな要望がほとんどであったとのこと。



三笠市教育委員会にて

と。  
伊達として三笠市と同じく、専従を置く余裕はないと思われる。

よつて教頭が窓口となるのは必然ではないだろうか。

学校側にできるだけ負担をかけずに運営するため、準備をしっかりと行う必要があると思われる。

例えば、評議員やPTA役員との連携、打ち合わせなど、情報の共有化を図ることは絶対であると思われる。

どちらかが勝手に進めるのではなく、両輪として運営していくことが大事だと思われる。

○北海道北広島市

★北広島市ユーストリームによる議会中継

専用サーバーを持たず、ライブストリーミング配信であるユーストリームを早くから導入してきた市である。

問題点として

1、ライブとはいえ30秒ほどのタイムラグがある。  
2、無料でのユーストリーム活用のため、15秒ほどのCMが入る。

3、ユーストリームで流したものの版權がユーストリーム側にあるため、再度加工などはできない。

大きくこれらの問題点があるが、カメラや、管理端末など購入したものの以外に料金が発生しないため非常に割安感がある。

質問者や答弁者の役職や名前などは、その都度、議会事務局の職員が管理端末で打ち込みをする必要がある。

ただ初期投資以外、コストが抑えられるため、メ리트は非常に大きいと思われる。



会派 創生・公明党

◎参加者

会派 創生

国本一夫、堀 博志

阿部正明、篠原一寿

公明党

原見正信、渡辺雅子

◎期間

平成28年3月29日(火)

～30日(水)

◎調査場所・目的

○北海道札幌市

★図書館の運営について (札幌市中央図書館)

札幌市教育委員会・中央図書館利用サービス課を訪問し、札幌市の図書館運営の実態と教育行政の企画するところを研修した。

札幌市には中央館をはじめとする各区図書館が11施設。区民センターおよび地区センター内に併設される図書室等は30施設

で計41の図書館、図書室が整備され、190万市民のニーズに対応している。

また、図書館事業の教育行政における位置づけを①仕事やくらしに関する資料・情報提供、②札幌の魅力発信、③知的空間の創出、を三つの柱として各施設間の連携を図っており、蔵書数は80万冊を超えるとの説明であった。

現在、札幌市では平成30年オープンを目的に「都心にふさわしい知的空間の創造」を目的とする札幌市図書・情報館の建設に着手している。

○北海道札幌市

★超高齢社会

一般社団法人「シニアライフサポート協会」を訪問し代表理事並びに協会後援会長の両氏から、超高齢社会が迎えるこれからの現実及びそれらに対する高齢者の意識づけをどのよう啓発するのか、また独居高齢者への見守り声掛けなどボランティア活



シニアライフサポート協会にて

動の成功事例など交えながら座談会方式で意見交換した。

